

全国交流大会

1. 首都圏土壌医の会の特徴
2. 現在までの活動
3. 首都圏土壌医の会の今後の在り方検討委員
4. 首都圏土壌医の会中期3か年計画
5. 首都圏土壌医の会規約変更
6. 今年度の活動状況（予定を含む）
7. 土壌医の会の皆様へのお願い

令和3年12月8日

首都圏土壌医の会 高山晃

1. 首都圏土壌医の会の特徴

(1) 設立目的

土壌医資格（土壌医・土づくりマスター・土づくりアドバイザー）を取得した理由

- ①自分の行っている農業に役立てたい
- ②資格を現在の仕事に生かしたい
- ③農業や土作りに興味を持ちそれらの知識を学ぶためのきっかけとしたい
- ④土づくりを通じた環境保全型農業や有機農業を推進したい
- ⑤食育を推進したい
- ⑥市民農園や家庭菜園の土作りでの問題点を解決したい
- ⑦新規就農者や福祉施設の農業への取組を支援したい
等様々

これらの思いを実現するために首都圏土壌医の会を設立

1. 首都圏土壤医の会の特徴

(2) **これらの思いを実現するための**首都圏土壤医の会の**4つの事業**

実現するためには

- ①土壤医等の持つべき知識を維持・向上させ、さらには知識を実践に結びつけるような研鑽も必要となります。
- ②共通の思いを持つ人との出会い、土作りに関する色々な分野の専門家との人脈を形成するための交流の場が必要となります。
- ③思いの実現に向けて、行動できる場が必要となります。

研鑽・研修事業

会員交流事業

会員活躍推進事業

検定試験講習会事業

2. 首都圏土壌医の会の現在までの活動

(1) 平成29年度(設立年度)

① 設立総会記念講演会

基調講演「土が作り出す世界をどう若者に引き継ぐか」 農文協プロダクション 鈴木敏夫氏

講演・土づくり(土壌医の役割)とGAPについて 首都圏土壌医の会事務局長 多田誠

講演 日本における農耕地と情報システムの現状とその利用 元東京農業大学 加藤好武氏 日本土壌協会 高橋猛氏

② 第1回現地研修会 【山梨県富士吉田市・山梨県総合農業技術センター岳麓試験地】

講演「山梨県の高冷地における野菜新作型と施肥法」：山梨総農技セ・環境部長・長坂 克彦 様

講演「鉢花・花壇苗類の生産阻害要因の究明と対策技術」：山梨総農技セ・岳麓試験地主幹・渡辺 淳 様

講演「アッサムニオイザクラの生理障害と対策」：山梨総農技セ・環境部・馬場 久美子 様

研究圃場(施設・露地)研修および総合討議：山梨総農技セ・岳麓主幹・渡辺 淳 様

③ 第2回現地研修会 【埼玉県寄居町(公民館)、深谷市(圃場)】

講演「土壌基本調査と細部調査」「土壌化学診断とポイント」 実習 土性調査 首都圏土壌医の会副会長 谷田貝敦

現地での指導・講演「作物生産に寄与する実践的な土壌調査」東京農大(化)加藤先生 大島先生

④ 土壌医検定受験演習研修会 2級9回 3級8回

⑤ 研究部会の設置

初年度、現地研修会2回開催し、なかなか頑張っていました。

講演会は東京、現地研修会は山梨、埼玉 参加できる人は限られていました。

2. 首都圏土壌医の会の現在までの活動

(2) 平成30年度(設立2年目)

① 定期総会研修会

基調講演「土壌微生物の特徴と診断、対策」 外部講師片倉コープアグリ株式会社技術顧問土壌の会全国協議会会長 野口 勝憲 様
講演「GAP認証と土づくり、施肥管理～土壌医として何が問われるか～」 内部講師 首都圏土壌医の会事務局長 多田 誠

② 第1回現地研修会

研修内容：ナス収量の比較的良好な個所と、同収量があまり振るわない個所に試坑を穿ち、土壌断面から読み取れる「推定原因」について受講者が考察できるよう研修した。

講師 外部講師 東京農業大学農芸化学科土壌肥料研究室 加藤拓先生 内部講師 副会長 谷田貝敦

③ 土壌医検定受験演習研修会 2級6回 3級6回

④ 研究部会活動

○ 市民農園等小規模圃場の土づくり研究部会 6回開催 ○ 土壌図活用研究部会 2回開催

○ 土壌医検定試験対策講習会研究部会 3回開催

⑤ 「農」の機能発揮アドバイザー派遣事業への参加 1事業実施

⑥ 令和元年度土壌医検定試験準会場設置 試験会場を設置 26名受験

**テーマを絞った研究部会活動が始まりました。
理事会の東京等での開催が負担になり、オンライン化を検討しましたが
進みませんでした。**

2. 首都圏土壤医の会の現在までの活動

(3) 令和元年度(設立3年目)

- ① 定期総会研修会
基調講演「腐植ならびに腐植物質を活かす土づくり」 東京農業大学 農芸化学科 土壤肥料研究室加藤拓先生
土壤医活動事例発表「水稻、ナスの収量・品質低下等に対する土壤診断による改善の取組み」 首都圏土壤医の会
副会長 谷田貝敦
- ② 第1回現地研修会【埼玉県寄居町・埼玉県立川の博物館】
講演「日本に分布する主な土壌とその特性」：埼玉県立・川の博物館・森 圭子 博士
実習：○土壌モノリスによる断面観察、土壌図との関係も学習（室内）
○埼玉県寄居町の畑地土壌を用いた土性実習（室内）
- ③ 土壤医検定受験演習研修会 2級6回 3級6回
- ④ 研究部会活動
○ 市民農園等小規模圃場の土づくり研究部会 6回開催
- ⑤ 令和2年度土壤医検定試験準会場設置 試験会場を設置 83名受験

研究部会活動は、1部会のみで開催となりました。
理事の職場が離れており、理事会開催の日程調整も大変で、理事会出席の理事の負担も大きいものでした。
会員の職業は様々で、集合研修会では、開催日時、場所などにより、参加者が限定されました。

2. 首都圏土壌医の会の現在までの活動

(4) 令和2年度(設立4年目 コロナ禍が始まる)

① 定期総会研修会

コロナの関係で開催されず。総会もメールリングリストを活用したイレギュラーなものとなった。

② 現地研修会

コロナの関係で開催されず。

コロナ禍のため理事会も開催できず、あらゆる活動が停滞。

対策としてZoom利用を検討。

まずは、理事会のオンライン化を進めました。

課題は、理事が、会員が、Zoomに慣れることが出来るのか。

まずは、理事がZoomに慣れ、そして出来る事から始めました。

- ③ 理事会をZoomで開催
- ④ 土壌医検定受験演習研修会 2級7回 (Zoom利用) 3級6回
- ⑤ オンライン講習会 (Zoom利用) 簡易土壌分析機器講習会
- ⑥ 研究部会活動
 - 市民農園等小規模圃場の土づくり研究部会 1回開催 (Zoom利用)
- ⑦ 令和2年度土壌医検定試験準会場設置 試験会場を設置 85名受験

Zoomを利用する中で、新しい可能性が見えてきました。

- (1) 研修会、会議への参加者、講師の負担が非常に軽減される。
- (2) 研修会、会議の会議室利用代金等が節約できる。
- (3) 全国の人と、簡単につながる事が出来る。
(全国の講師、土壌医等登録者?)

現状、会員が参加できる研修会が開催出来ていない。

→ 会員継続の危機(会員から活動費をいただいているので)

Zoomに詳しい理事が、会員へのZoomの導入をリードしました。

導入マニュアルを作成し、配信しました。

**一人ではZoomの導入が難しい会員には、
電話などを通じて、予備演習を行いました。**

停滞した研修・研鑽活動を回復させるため、3月に集中して研修会を行いました。

- ⑧第1回オンライン研修会 テーマ「ヤマトイモの市場性の向上を目指して（硬盤対策）」
講師 首都圏土壌医の会会員 鈴木直政氏 参加者15名
- ⑨第2回オンライン研修会 テーマ「バイオスティミュラント資材活用による作物の生育等改善」
講師 首都圏土壌医の会会員 高木篤史氏 参加者21名
- ⑩第3回・第4回オンライン研修会 テーマ「有機農業に活用できる堆肥・緑肥の利用法と効果」
講師 井原啓貴氏、豊田剛己氏、唐澤敏彦氏、富田祐太郎氏 参加者21名

コロナ禍における活動の制約

×

ICT(通信技術を活用したコミュニケーション)の可能性

次年度に向けて事業計画で開催が決まっていた委員会



首都圏土壌医の会の今後の在り方検討委員会

○首都圏土壌医の会の今後のあり方検討委員会3月20日～4月17日の間4回開催
会員に対して会の活動に対するアンケート実施し、次期3か年計画に会員の意見を反映した。

- 第1回検討委員会 テーマ 首都圏土壌医の会を取り巻く情勢等について
- 第2回検討委員会 テーマ 会員向けアンケート内容等について
- 第3回検討委員会 テーマ アンケート結果に基づいた会の今後の方向性について
- 第4回検討委員会 テーマ 今後の方向性に即した規約の変更等について

3. 首都圏土壌医の会の今後の在り方検討委員会

(1) 首都圏土壌医の会を取り巻く情勢等

- ① 世の中の動き
企業 テレワーク Zoom等ICTの活用 急速に拡大
個人 ネット活用による通信販売の利用 コミュニケーション手段としてフェイスブック、ライン、インスタグラム等SNSの活用

- ② 首都圏土壌医の会
コロナ禍による活動の制約 現地研修会、集合研修会が開催できない



試行錯誤

Zoomを活用した研修方法、活動方法が見えてきた

- ③ 地域土壌医の会 会員の範囲
複数の土壌医の会に加入している人の増加
住居ないところの土壌医の会への加入が認められている

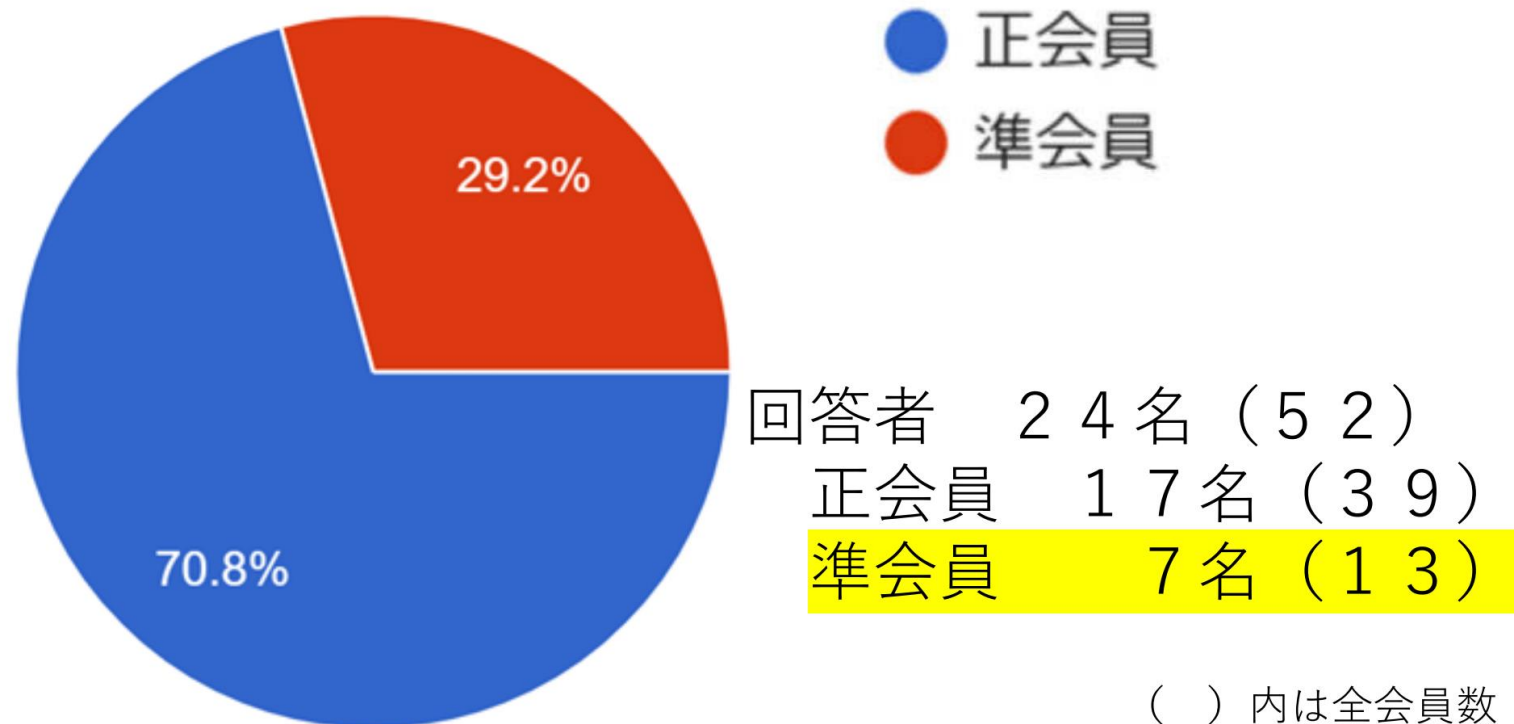
3. 首都圏土壤医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壤医の会の会員に対するアンケート（抜粋①）

アンケート回答者 **準会員の方が回答率が高い**

2) 会員の種別

24件の回答

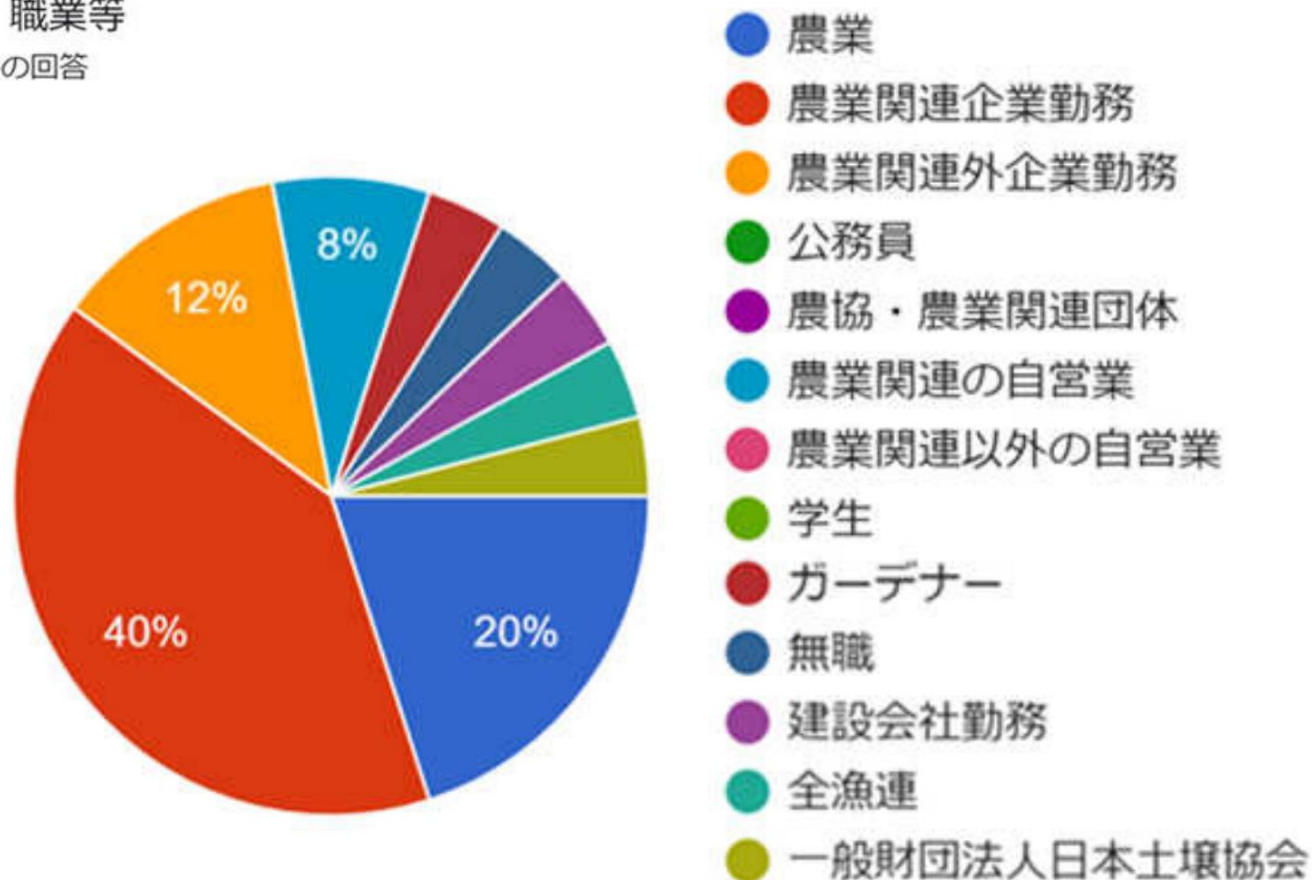


3. 首都圏土壌医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壌医の会の会員に対するアンケート（抜粋②）

職業等 **農業関連企業** **農業の順** **多種多様**

4) 職業等
25件の回答



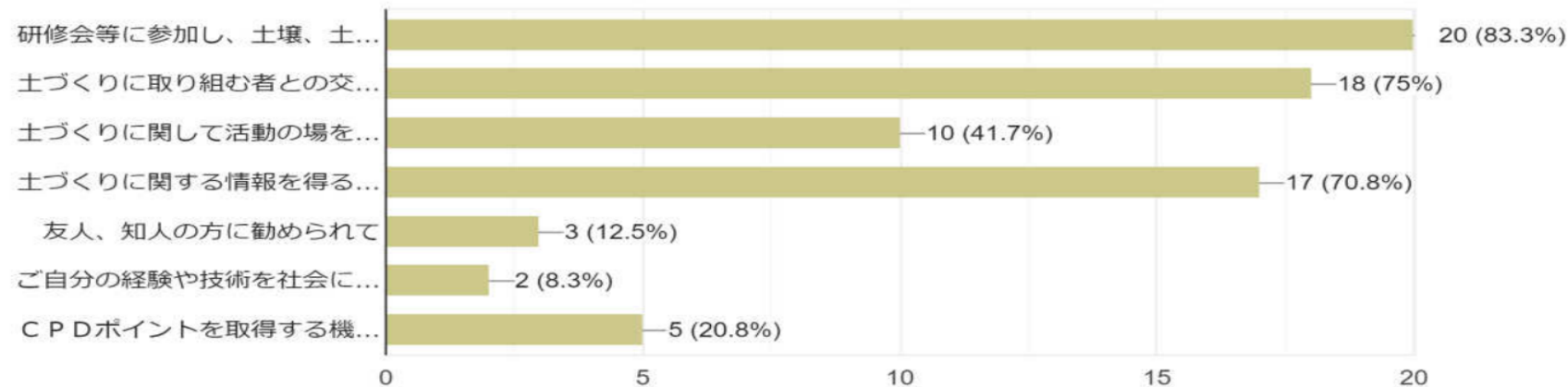
3. 首都圏土壤医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壤医の会の会員に対するアンケート（抜粋③）

加入理由 研鑽 交流 情報入手 活動の場を得るの順

1) 首都圏土壤医の会に入会された理由を選択してください（複数回答可）

24件の回答



研修会等に参加し、土壤、土づくり等の研鑽を図ることが出来ると思ったから

土づくりに取り組む者との交流を図ることが出来ると思ったから

土づくりに関して活動の場を得ることが出来ると思ったから

土づくりに関する情報を得ることが出来ると思ったから

友人、知人の方に勧められて

ご自分の経験や技術を社会に活かすことが出来ると思ったから

CPDポイントを取得する機会が得られると思ったから

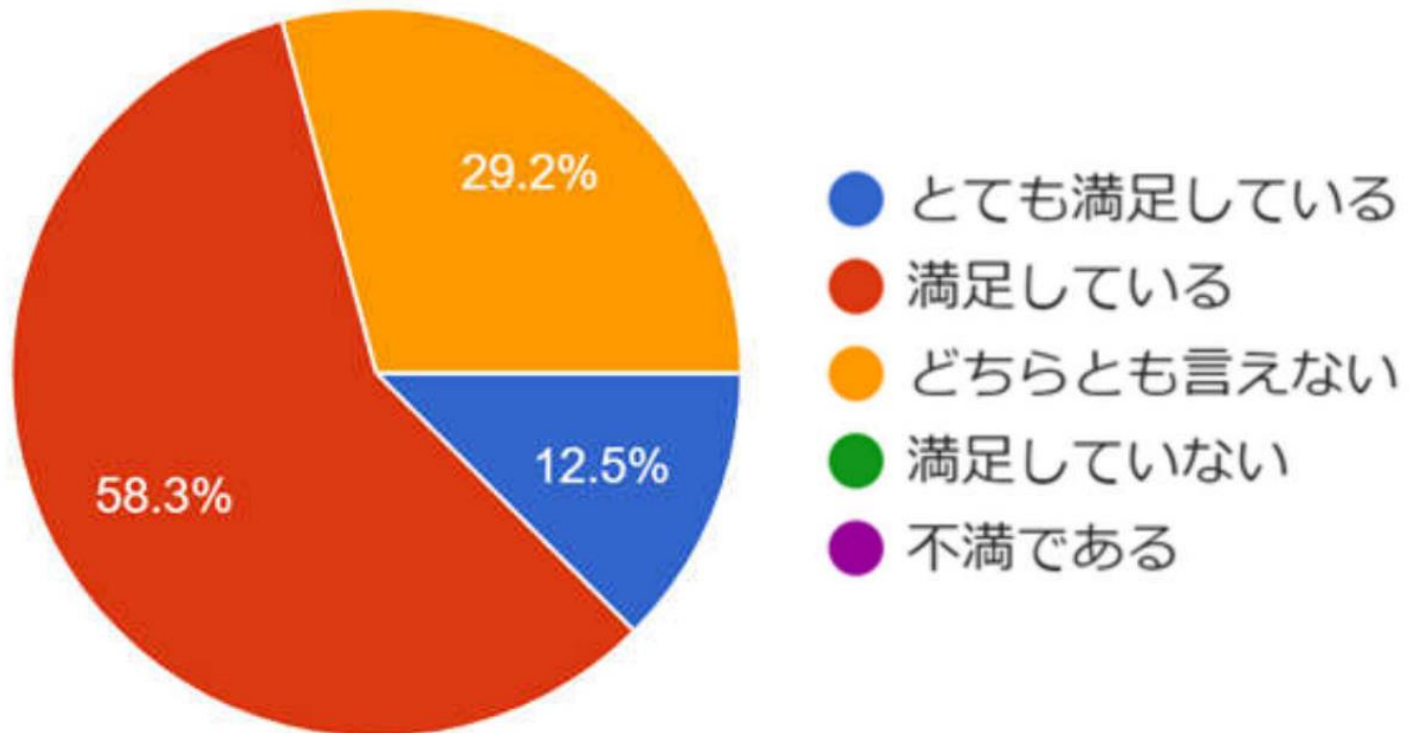
3. 首都圏土壌医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壌医の会の会員に対するアンケート（抜粋④）

満足度 どちらとも言えない 約30%

2) 首都圏土壌医の会の活動に対する満足度について

24件の回答



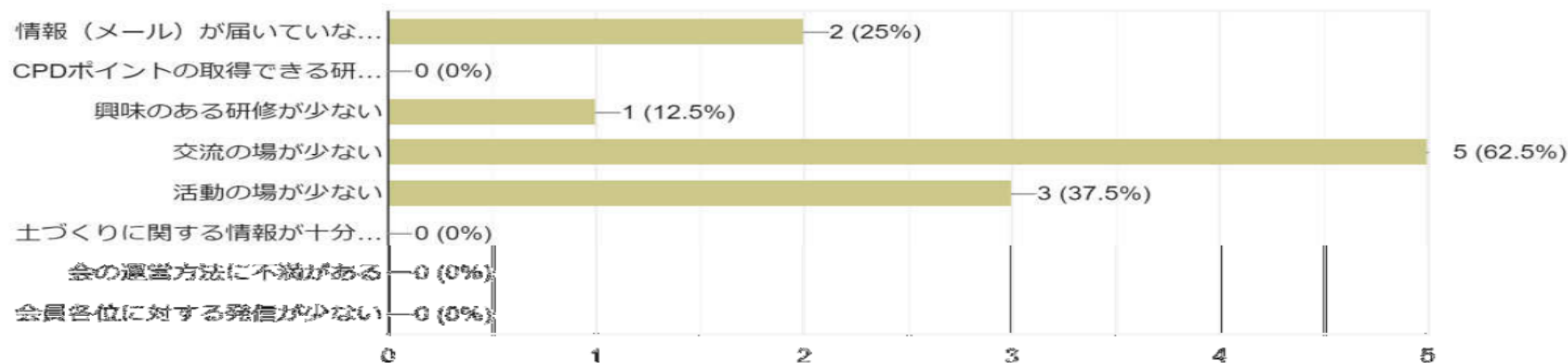
3. 首都圏土壤医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壤医の会の会員に対するアンケート（抜粋⑤）

どちらとも言えないの理由 交流、活動の場が少ない

3) どちらとも言えない、満足していない、不満で...、その理由をお聞かせ願います。（複数回答可）

8件の回答



- 情報（メール）が届いていない場合がある
- CPDポイントの取得できる研修機会が少ない
- 興味のある研修が少ない
- 交流の場が少ない
- 活動の場が少ない
- 土づくりに関する情報が十分に得られない
- 会の運営方法に不満がある
- 会員各位に対する発信が少ない

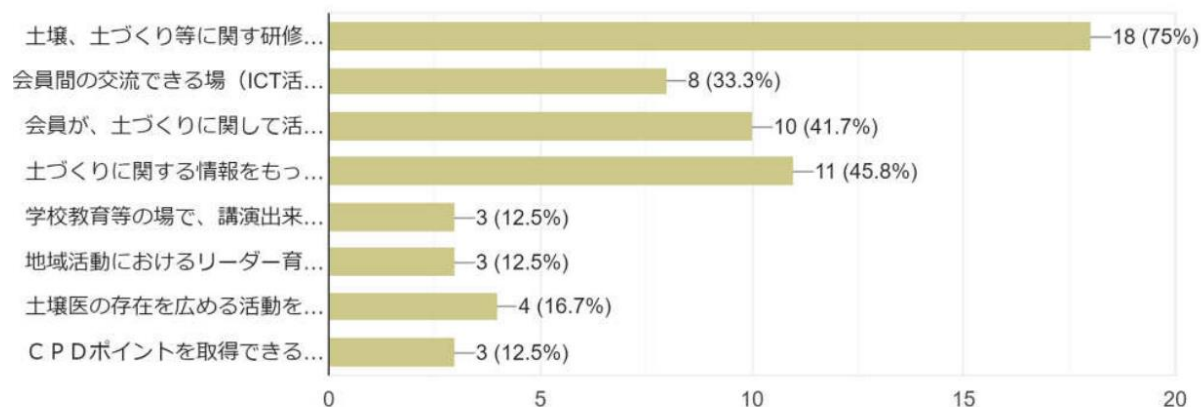
3. 首都圏土壤医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壤医の会の会員に対するアンケート（抜粋⑥）

期待する内容 研鑽機会、交流の場の増加、活躍の創出、情報の提供

1) 今後、首都圏土壤医の会に期待する内容について、お聞かせ願います。（複数回答可）

24件の回答



土壌、土づくり等に関する研修の開催など、研鑽機会を増やしてほしい

会員間の交流できる場（ICT活用を含む）を増やしてほしい

会員が、土づくりに関して活躍する場を作ってほしい

土づくりに関する情報をもっと提供してほしい

学校教育等の場で、講演出来る機会を作ってほしい

地域活動におけるリーダー育成の役割を担ってほしい

土壤医の存在を広める活動を行ってほしい

C P Dポイントを取得できる機会を増やしてほしい

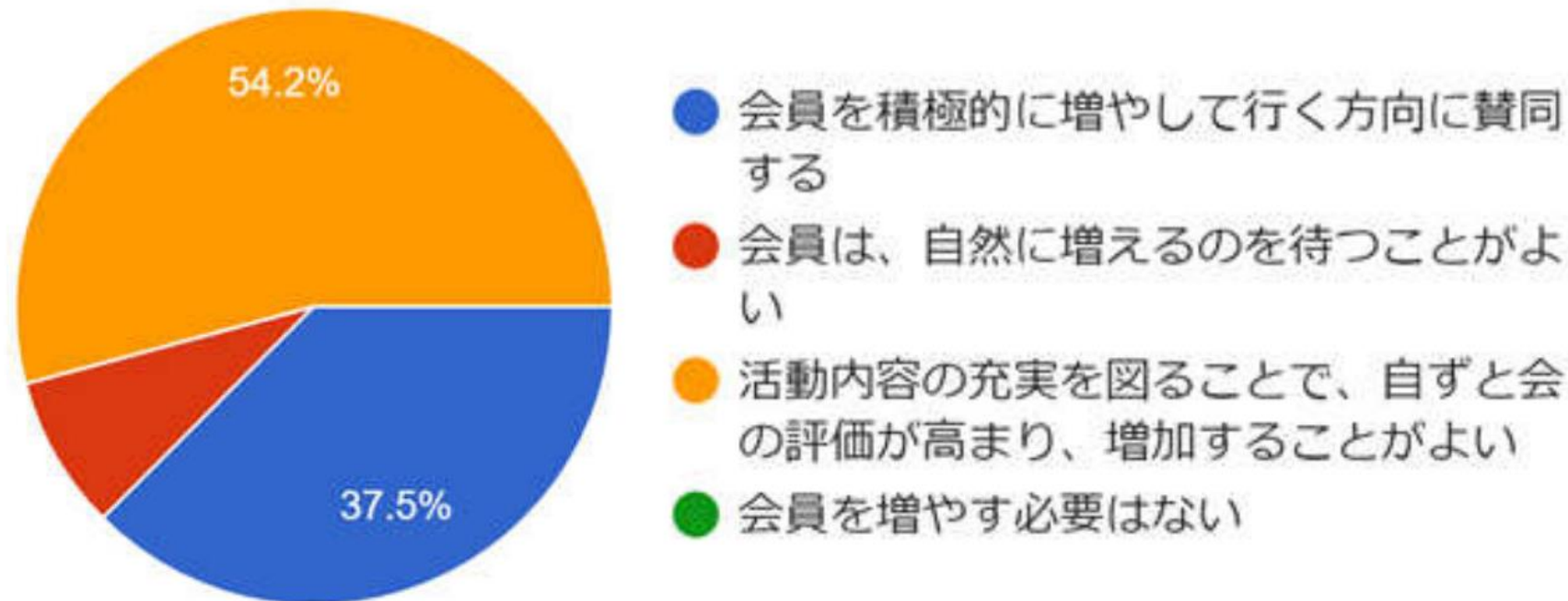
3. 首都圏土壤医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壤医の会の会員に対するアンケート（抜粋⑦）

会員を増やすことについて 活動の充実による増加が半数以上

1) 会員を増やすことについて

24件の回答



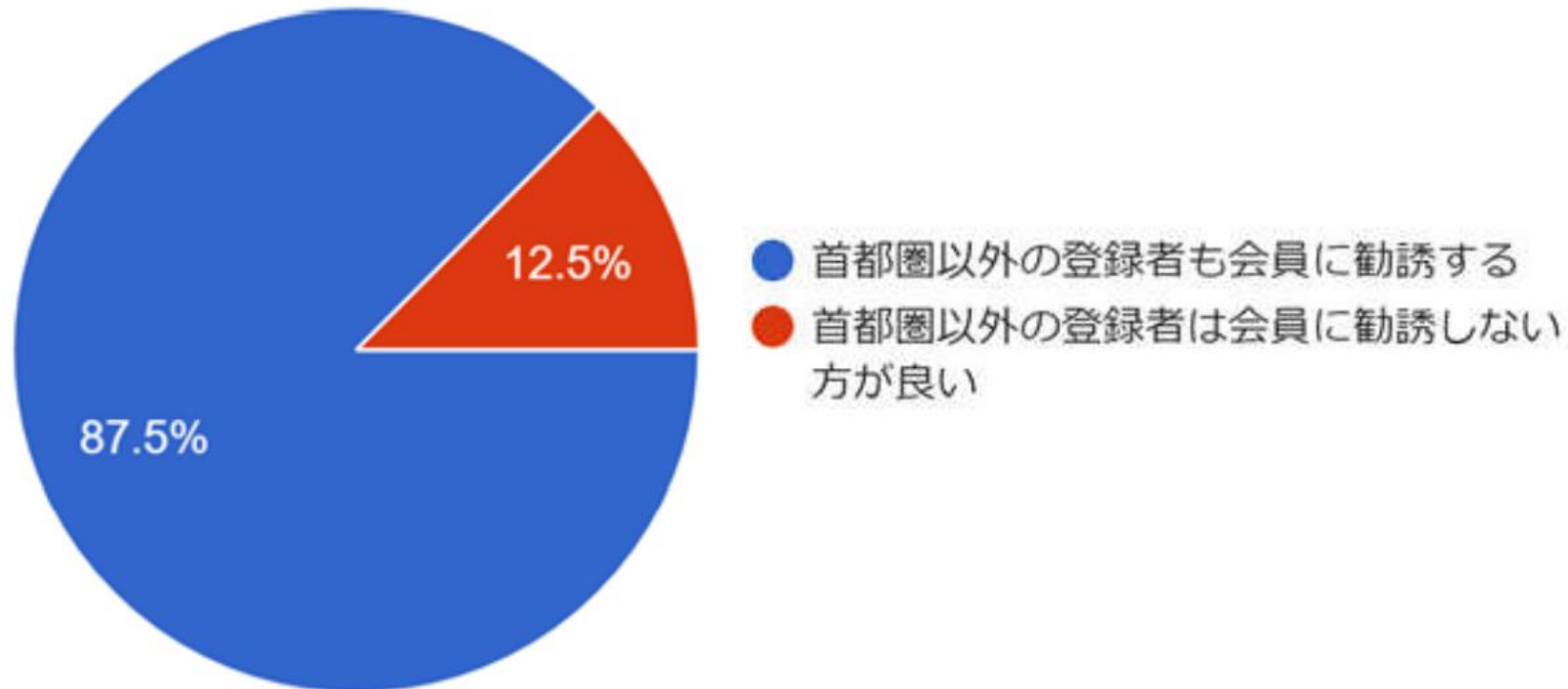
3. 首都圏土壤医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壤医の会の会員に対するアンケート（抜粋⑧）

首都圏以外の会員を増やすこと 大半が賛成

2) 首都圏以外の登録者への勧誘について

24件の回答



3. 首都圏土壤医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壤医の会の会員に対するアンケート（抜粋⑨）

実施して欲しい研修 土壤診断、土壤改良、他にも様々

分野	回答数	回答内容要約
土壤診断	7	診断結果の読み方、土壤診断と減肥のテクニック、土壤検査キット、処方箋作成、土壤の物理性、ヘソディム、SOFIX
土壤改良	3	微生物資材、堆肥、土壤改良の歴史
栽培技術	7	施肥技術、品質向上対策、無農薬栽培、病虫害対策、モグラ対策
小規模圃場関係	8	花の栽培技術、身近な野菜、花等の土づくり、家庭菜園・市民農園の土づくり、ガーデンの土づくり、バラ栽培のノウハウ、家庭菜園の病虫害対策、土のリサイクル
土壤に関する新知識	1	新技術に情報提供
スマート農業	1	IT技術を利用している生産者の見学
農業政策	4	SDGS,農業法人、国や地方の農業政策、持続可能な農業

追記 アンケート内容ではありませんが理事会等で、

①「みどりの食料システム戦略」の中で土壤医に期待すること

②この12月1日に最終改正施行された「肥料の品質の確保等に関する法律」（旧肥料取締法）の改正の意図と土壤医に期待すること

について、農水省より講演、研修がいただけないかという要望があります。

3. 首都圏土壌医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壌医の会の会員に対するアンケート（抜粋⑩）

お招きしたい講師 傾向 著書を読んで、さらに話を聞きたい

講師氏名	回答者	所属	著書	講師氏名	回答者	所属	著書
西尾道德	1名	元筑波大学教授	<ul style="list-style-type: none"> ・検証有機農業 ・基礎講座有機農業の技術 ・堆肥・有機質肥料の基礎知識 ・土壌微生物の基礎知識 ・地球環境を守る微生物 ・有機栽培の基礎知識 ・土壌微生物とどう付き合うか ・有機物をどう使いこなすか ・微生物が森を育てる ・検証有機農業 ・微生物が地球を作った ・農業環境を守る微生物利用技術 他 	渡辺和彦	1名	食と農の健康研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・土と施肥の新知識 ・人を健康にする施肥 ・ミネラルの働きと人間の健康 ・肥料の夜明け ・野菜の要素欠乏・過剰症 ・園芸作物の栄養診断の手引き ・ミネラルの働きと作物の健康
後藤逸男	2名	東京農業大学 (名誉教授)	<ul style="list-style-type: none"> ・土と施肥の新知識 ・基本から分かる土と肥料の作り方・使い方 ・野菜がうまい土名人 ・おもしろい生態とかしい防ぎ方根こぶ病 ・基本から分かる堆肥の作り方・使い方 ・病害虫防除対策と土づくり 	森田茂紀	1名	東京農業大学教授	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン農学概論 ・栽培学 ・根の生態学 ・根の発育学 ・根のデザイン ・エネルギー作物学
木嶋利男	1名	伝統農法文化研究所 (主宰)	<ul style="list-style-type: none"> ・安心 はじめての野菜作り ・コンパニオンプランツの野菜作り ・連作でよく育つ野菜作り ・野菜作りの知恵と技 ・育つ土を作る家庭菜園の科学 	藤原俊六郎	1名	元明治大学特任教授	<ul style="list-style-type: none"> ・図解土壌の基礎知識 ・とことん優しい土壌の本 ・だれでもできる肥料の上手な効かせ ・堆肥の作り方・使い方
武田健	1名	株式会社エー・エム・エル農業経営研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・土を見るー自然からのメッセージー ・新しい土壌診断と施肥設計 ・誰でもできる養分バランス施肥 ・絵で見るおいしい野菜の見分け育て方 	池田成志	1名	農研機構 北海道農業研究センター	<ul style="list-style-type: none"> ・植物共生科学から考える農耕地生態系の物質循環と持続的農業(論文) ・植物共生細菌群集のメタゲノム解析のための細菌細胞濃縮法マニュアル(成果情報)
松中照夫	1名	酪農学園大学名誉教授	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌学の基礎(生成・機能・肥沃度・環境) ・土は土である ・草地理学の基礎 	小林和司	1名	山梨県果樹試験場主	<ul style="list-style-type: none"> ・よくわかるブドウ栽培 ・育てて楽しむブドウ栽培・利用加工 ・基礎から分かるおいしいブドウ栽培
藤井一至	2名	森林総合研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・土地球最後のナゾ 100億人を養う土壌を求めて ・大地の五億年 	若林正吉	1名	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、東北農業研究センター 主任研究員	<ul style="list-style-type: none"> ・大宮台地における伝統客土「ドロツケ」による人為的土壌生成とその農業的意義(論文)
多種にわたる農業経験者							

3. 首都圏土壌医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壌医の会の会員に対するアンケート（抜粋⑪）

会の活動全般にかかるアイデア	
アンケート内容要約	アンケート回答内容
いつでもアクセスして情報が得られる窓口	・なかなか参加出来ない私としては、何時でも時間が出来た時に、アクセスして情報が得られる窓口を作って欲しいです。
ライブラリー	・土作りに関してのライブラリー等があると参考になる。例えば沢山あるバイオステミュラント資材などで、どう言うものがどういう効果が有るかなど。
生映像での現場からの研修	・ウェブの生映像で現場を説明して見せてくれる、質問もできて、行った気になる方法。現場の説明や会社の研究所訪問を生映像の配信でやったらいかがでしょうか。ディスタンスの関係から実際行くのは5～10名くらいにして、後の人には配信するやり方でいかがでしょうか。私の希望として、片倉コープアグリ(株)の研究所を訪問したいと思います。
現場での研究イベントの開催	・圃場等屋外での現地調査等、密にならずに実施できる範囲で研究イベントを再開できたら幸甚です。
都内での研修 (現状、県境を越える移動はしにくいいため)	・現状、県境を越える移動はしにくいこともあり、自分自身の住まいがある都内での研修があるとよいと思っています。実施可能かや研鑽として認められるかなどわかりませんが、私の勤める会社で関わっている都内公園（農業公園や花壇管理を行っている公園）の見学などを行い、公園等の土の状況を知るという機会が提案できたらと考えています。私と同様に都内にお住まいで遠距離の移動を懸念されている方がいらっしゃるようでしたら、研修の一つとして検討したいと思います。
ZOOM研修を録画して受講	・現状、Zoom研修が主となっていますが、都合が合わない場合も、後日研修に参加できる（録画など）と良いと思っています。勤務する会社では、そういった方法も行っています。
各企業の新技術紹介	・会員へのいろんな会社の新技術紹介等・今の状況では最善の方法だと感じます。収まったら交流、活動の場をお願いします。
適切な対策を取ったうえでの現地研修会の開催	・屋外の現地研修会であれば、適切な対策を取った上で開催できるのではないのでしょうか？
知識を深めるためのZOOMによるセミナーや講習会	・、セミナーや講習会など、知識を深める機会は、ZOOM活用が効率的でいいと思います。
少人数での活動	・コロナ対応を万全に行う形での、少人数での活動を一部実施。
現場の声を聞きに行く	・現場のサポートが土壌医の役割の2つであるならば、もっと現場の声を聞きたいと思っています。
ZOOM 土壌医検定合格祝賀会	・コロナ禍のZOOM活用はいいと思います。ZOOM土壌医検定合格祝賀会はどうでしょうか。
	・BCP訓練の社内横展開を図る為、コンサル企業の方と、研修方法を模索中です。良い仕組みが出来ましたら、皆様にご報告出来ましたらと存じます。
	・大学等も徐々に対面授業が始まっています。

3. 首都圏土壌医の会の今後の在り方検討委員会

(2) 首都圏土壌医の会の会員に対するアンケート（抜粋⑫）

活躍の場創出のアイデア

地域活動、農業関係学校への講師派遣の回答が多い

項目	回答数	対象	具体策
農業大学校学校などへの講師派遣	4	農業大学校、農業高校	講師派遣、マニュアル作成
地域活動	8	小学校、市民農園、一般市民向け、地域農業関係イベント、ガーデンナー	菜園・花壇の土づくり支援、相談活動、セミナー開催、イベント参加、ボランティア活動、マニュアル作成
成果発表	1		テーマを決めて、新技術評価を評価しその結果を発表する。
データ駆動型土づくり推進事業	1		事業への参加
報告書の作成	1		過去の研修内容を文字起こしして、報告集としてまとめる

4. 首都圏土壌医の会中期3か年計画

(今後の在り方検討委員会の検討内容に基づき理事会で作成)

(1) 基本理念

1. 会員相互の連携を密にし、会員の土づくりに関する課題解決力を高める。

2. 土壌医の認知度向上と社会的地位の向上をはかる。

3. 地域の農業・農村、都市農業、市民農園、福祉農園、家庭菜園、都市公園、自然公園、ガーデン等土づくりを必要とするあらゆる現場の活性化に貢献する。

4. 首都圏土壤医の会中期3か年計画

(2) 基本方針

コロナ禍により活動が制約されている中、土づくりを必要とするあらゆる現場の活性化を進めるために、ICT等を活用し会の活動を活発化させ、新たな会員を受け入れ、それによりさらに活動が活発化するという、スパイラルアップの組織に変える。

具体的には

- ① 首都圏土壤医の会の目的を、広く土づくりを必要とするあらゆる現場の活性化に貢献することとしたことに合わせて、活動の幅を広げていく。
- ② 土づくりに関する課題解決力を高めていくために、研鑽活動、交流活動を活発化させる

4. 首都圏土壤医の会中期3か年計画の作成

(2) 基本方針

- ③ 会員の活躍の場を創出するとともに、それに対応する会員個々のスキルの向上をはかる。
- ④ 広く会の活動を紹介し、土壤医と首都圏土壤医の会の認知度向上をはかり、会員を増加させる。
- ⑤ 人材、人脈を積極的に確保し、活動の活発化と拡がりに必要な会の対応能力の向上をはかる。
- ⑥ 会の活動の活発化に対応できる業務執行体制を確立する。

4. 首都圏土壤医の会中期3か年計画の作成

(3) 基本施策 省略 別添資料参考

(4) 中期計画 表

首都圏土壤医の会中期計画 (2021年～2023年)

2021.6.14

施 策	担当 理事 相談役	R 3 (2021年度)	R 4 (2022年度)	R 5 (2023年度)
		年度末会員数60名	年度末会員数80名	年度末会員数100名
(1) 研修・研鑽事業 ①研修体系の確立 ②研修会の企画 ③研修会の実施				
(2) 会員交流事業 ①会員交流会の企画 ②会員交流会の実施				
(3) 会員活躍推進事業 ①研究部会活動の支援 ②会員活躍の場の企画・開発				
(4) 検定試験講習会事業 ①検定試験普及活動 ②検定試験講師の養成 ③検定試験講習会の企画 ③検定試験講習会の開催 ④検定試験会場設置				
定期開催 環境整備		6月▼総会 理事会▼▼▼▼▼▼▼▼	6月▼総会 理事会▼▼▼▼▼▼▼▼	6月▼総会 理事会▼▼▼▼▼▼▼▼
		理事会、意見交換会の試行	理事会、意見交換会定期開催	理事会、意見交換会定期開催

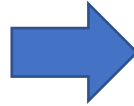
5. 首都圏土壤医の会規約変更

中期計画に合わせて規約の変更を行った。主な変更 第3条 第5条

(1) 第3条

(目的)

第3条 本会は土づくりに関するアドバイスや指導力の一層の強化を図るため、地域土壤医の会として首都圏内（東京都、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、神奈川県、埼玉県、千葉県）に在住する会員相互の研鑽と交流を深めるとともに、会員の情報ネットワーク等を通じ土づくりに関する課題解決力を高めることによって地域の農業・農村、都市農業の活性化等に貢献することを目的とする。



*** 第3条変更 ***

改正理由

- 分かりやすくするための文章構成の変更
- 土づくりを行う現場を農業に限らず広くとらえたい。

農業以外の土づくりの現場例

- 市民農園 ○家庭菜園 ○家庭ガーデン
- 緑地公園、自然公園 ○学校の菜園・花壇 ○森林

改正案

(目的)

第3条 本会は地域土壤医の会として土づくりに関する課題解決力を高めることによって地域の農業・農村、都市農業、市民農園、福祉農園、家庭菜園、都市公園、自然公園、ガーデン等土づくりを必要とするあらゆる現場の活性化に貢献することを目的とする。

目的を達成するためには、土づくりに関するアドバイスや指導力の一層の強化を図る必要があり、具体的には

- ①会員相互の研鑽と交流を深める
- ②会員の情報ネットワーク等を通じ土づくりに関する課題解決力を高める

ことを実践する。

地域に関しては、第5条へ



5. 首都圏土壌医の会規約変更

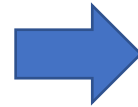
(2) 第5条

第2章 会員

(会員)

第5条 本会の会員は土壌医資格登録者（土壌医、土づくりマスター、土づくりアドバイザー）を中心として、次の会員によって構成される。

- (1) 土壌医資格登録者(正会員：ゴールド会員及びシルバー会員)
- (2) 入会を希望する者(準会員)
- (3) 土壌医の会の活動に協賛し、本会の発展、拡大に協力する企業、団体(賛助会員)



**** 第5条変更 ****

改正理由

→ 首都圏以外に在住する者で本会の活動に賛同する者を、会員として認めたい。

改正案

(会員)

第5条 本会の会員は、**首都圏内（東京都、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、神奈川県、埼玉県、千葉県）に在住する土壌医資格登録者（土壌医、土づくりマスター、土づくりアドバイザー）**を中心として、次の会員によって構成される。

なお、首都圏以外に在住する者であっても、本会の活動に賛同するものは、会員として認める。

- (1) 土壌医資格登録者(正会員：ゴールド会員及びシルバー会員)
- (2) 入会を希望する者(準会員)
- (3) 土壌医の会の活動に協賛し、本会の発展、拡大に協力する企業、団体(賛助会員)

(3) 第5条の賛助会員について

賛助会員については現在具体的な決まりがなく、今年度賛助の内容について検討し、賛助会員の定義を明確にします。

6. 今年度の活動状況（予定を含む）

（1）定期総会

令和3年7月12日 第5回定期総会を、Zoomを使いオンラインで開催

（2）研鑽・研修事業

① オンライン研修会

○第1回オンライン研修会を開催 令和3年11月22日

講師 首都圏土壌医の会理事 高木篤史氏

内容 「微生物活用（応用編）土壌への処理法について

年度内に、本会土壌医による研修会を3回開催予定

② 外部講師による研修会 令和4年1月17日開催予定

講師 東京農業大学名誉教授 後藤逸男先生

テーマ 『土壌診断は、「健康な土づくり」の啓発に役立つか？』

6. 今年度の活動状況（予定を含む）

（3）交流事業

- ① 第1 会員交流会を開催予定 令和3年12月18日
交流会に先立ち、意見交換会も開催

（4）会員活躍推進事業

- ① 市民農園等小規模圃場土づくり研究部会で読み合わせ会を開催
令和3年7月17日から令和3年11月26日 合計7回開催（Zoom利用）
年度内にさらに3回開催予定
読み合わせに使用した書籍「土・肥料のきほん」（日本土壌協会監修）

（5）検定試験講習会事業

検定試験講習会は行わない。本会HPの受験情報サイトを充実する。

（6）データ駆動型土づくり推進事業

会員の圃場を中心に事業へ参加

7. 土壌医の会の皆様へのお願い（入会のお誘い）

地域土壌医の会の活動は、土づくりの現場での研鑽・研修が基本

しかし

広域の方が効率の良い活動・広域しかできない活動もある

様々な地域、職業の人との交流・情報交換（色々な人とつながり情報交換）
講師料の必要とする外部講師による研修（多人数で受講し受講コストを下げる）
様々な知識、技術を持った内部講師の研修（様々な知識・技術を持った人と仲間になる）
同じ思いを持った人と見つける。自分の思いを拡げる。（特定のテーマでの勉強会を開催する。）
情報インフラを充実させる（多人数の会員で維持する）

首都圏土壌医の会は、こういった活動を行います。
賛同いただける方は、**地域と首都圏の土壌医の会ダブル加入**をお願いします。

首都圏土壌医の会の会費（2000円）は、主に外部講師謝礼、研修会場費、資料印刷代、通信費、**情報インフラの充実**等に使います。入会申し込みURL <http://xn--ekrx2gnbu0i639kk1k.jp/form1.html>

**ご清聴、あいが
とうございま
す。**

